

島津久基 ひまづ ひさき 國文學者、文學博士。明治二十四年四月十六日鹿兒
島縣鹿兒島郡伊敷村生れ、昭和二十四年四月八日歿（一八九一—一九四九）。
第七高等學校送土館を經じ、大正五年東京帝國大學文科大學國文學科
卒。第一高等學校教授、東洋大學教授、更に昭和十八年東京帝大教授
となる。「源氏物語」を始り、傳説、説話、物語文學の研究に優れ、
業績を残した。

著書、校訂『源氏物語』全五冊（昭和二年八月—二十日—九年四月—
十五年）、教科書版・七年四月十日—十年四月五日岩波書店「岩波文
庫」、『羅生門の鬼』（昭和四年六月五日新潮社）、校訂『竹取物
語』並附録』（昭和四年六月—二十日岩波書店「岩波文庫」）、『改訂
中等新國文教授用參考書卷四』（藤村作共著、昭和十年九月五日全文
堂）、『源氏物語新考』（昭和十一年五月五日明治書院）、『祖國文
藝と國民教育』（昭和十一年十月十九日日本文化協會出版部「日本文
化編輯」）、編校『お伽草子』（昭和十一年十月—二十日岩波書店「岩
波文庫」）、校訂『義經記』（昭和十四年二月十五日岩波書店「岩波
文庫」）、『歡喜歌』（昭和十七年十一月—二十日河出書房）、『よま
とこころ』（昭和十七年十一月—二十日成武堂）、『紫式部』（昭和十
八年二月十五日青精堂「日本文學者評傳叢書」）、『日本國民童話十
一講』（昭和十九年十月十八日山一書房）、『鎌倉のれんご草』（昭
和二十一年一月十日矢島書房）、『日本文學考論』（昭和二十二年五
月十日河出書房）、『國文學ノート』（昭和二十二年七月二十一日河
出書房）、『紫式部一人とその作品』（昭和二十三年一月—二十日日本
書院）、編著『日本文學通觀』全二冊（上、下・昭和二十四年六月）

十八分書藝圖書株式會社）、編『續お伽草子』(古今真次校訂、昭和
二十一年四月五日岩波書店「岩波文庫」)等。

